

MSUB 留学報告書

文学部英語英米文学科 4年

古本 知

はじめに

僕がこの大学に来た理由はモンタナに留学するためでした。留学したいというのは高校生の時からの憧れの1つであり、それを叶えるために大学を選んでいました。熊本県立大学は第一志望の学校ではなかったのですが、第一志望校に落ちてしまっても留学に行くことだけは諦めたくはなかったので、この大学のモンタナ留学プログラムはとても魅力的なものでした。僕は実際2018年の8月の終わりから2019年の5月の始まりまでアメリカのモンタナ州立大学ビルングス校に留学生として在籍しました。

生活&休暇

アメリカに着いたら空港でBFFと呼ばれるホストファミリーの人が迎えてくれました。そのまま生活に必要な家具を買いに行き、寮に帰りました。寮は1人部屋で、ベッドが2つ、机が1つと椅子が1つありました。食事は基本的に学校の食堂で取りました。長期休みを除いて毎日開いているので、そこで食事を済ませました。朝、昼、晩と1日3回開いているので、僕は昼・夜もしくは朝・夜に食堂で食べていました。バイキング形式で好きなものを好きな量だけ食べることができました。グリーンボックスと言われる弁当箱があつてそこに入れて持って帰って部屋で食べることもできました。休日のはじめの頃は街を散策していました。学校の寮の目の前にはリムロックと呼ばれる大きな岩の壁があるのでそこを登ったりしました。学校が始まる前の週の休みに留学生みんなでイエローストーン国立公園に行きました。その次の日にはチコの温泉に行きました。ここは温泉と言うより温水プールのような感じでした。サンクスギビングなどの1週間位の休みの時には旅行をしました。サンクスギビングの時にはモールオブアメリカなどのあるミネソタ州ミネアポリスに行きました。そこで初めて都会のアメリカを少し感じられたと思います。冬休みにはドイツ人の友達2人とラスベガス、フェニックス、サンディエゴ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトルに行きました。その旅行を通して、アメリカは州ごと、場所ごとに全く違う雰囲気を持っているんだなと気づきました。サンフランシスコは海の匂いもしたので、僕の地元である広島を思い出させてくれました。冬は雪がとても降るのであまり外には出られませんでした。それでも学校の中で開かれたジャズのコンサートなどに行くことができました。そして、ミニスプリングブレイクと呼ばれる後期中頃にある1週間休みの時は、デンバーに行きました。雪が溶けてからは、射撃体験に行ったり、ペイントボールを打ち合ったりしました。アメリカでの生活は日本では経験できない事ばかりができるので、とても刺激

的で、毎日が楽しくてたまりませんでした。正直今からでもアメリカに戻りたいくらいです。(笑)



交流のために留学生でチコに行った時の一枚

学校

モンタナ州立大学ビリングス校では、さまざまな授業を受けることができました。授業の取り方は日本とは全く違い、12単位以上を一つの学期のなかで取る必要があります。一つ一つの授業は1~3単位で3単位の授業を4つとっても良いし、1単位の授業を12個取っても良いという形でした。前期はアメリカの歴史や異文化の事について学び後期はライティング、リーディング、音楽などについて学びました。アメリカの授業では宿題が多く出されます。授業で学ぶよりは宿題をやりながら学ぶということが多いかもしれません。毎週50ページ位を読む必要がありそれに加えてエッセイを書く必要がありました。最初のうちは本当に宿題をやるのが精一杯で、休日も宿題ばかりしていました。それでも宿題に慣れてくると自分の自由な時間が生まれるので、その時には友達と遊びに行ったりしました。



学校の写真2枚

さいごに

今回の留学の経験は自分にとってかけがえのないものになりました。英語力の向上はもちろんですが、内面的な部分もとても成長したと感じます。さまざまな人と出会い、さまざまな文化に触れ色んなことを感じました。そして、色んな人に助けてもらいながら生きていることを実感しました。この留学で計り知れないほどのことを学びました。この留学経験は自分にとっての一生の宝物です。そしてそれを活かして生きていこうと思います。